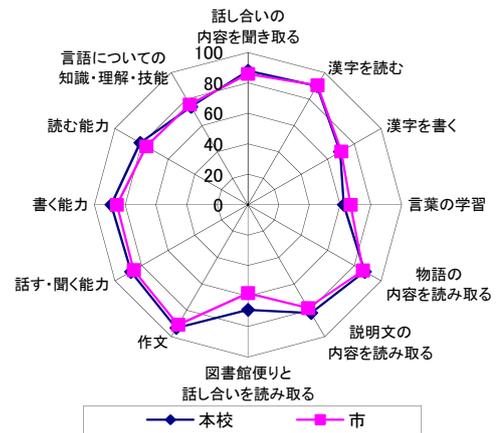


# 宇都宮市立豊郷中央小学校 第6学年【国語】問題の内容別／観点別正答率

## ★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
問題の内容別	話し合いの内容を聞き取る	88.0	85.9
	漢字を読む	89.9	90.4
	漢字を書く	69.3	70.1
	言葉の学習	62.4	66.9
	物語の内容を読み取る	87.9	86.5
	説明文の内容を読み取る	82.2	78.4
	図書館便りと話し合いを読み取る	69.1	58.1
	作文	93.4	91.0
観点別	話す・聞く能力	88.0	85.9
	書く能力	89.1	85.4
	読む能力	81.2	76.6
	言語についての知識・理解・技能	74.3	76.0



## ★指導の工夫と改善

問題の内容	本年度の状況	今後の指導の重点
話し合いの内容を聞き取る	○平均正答率は市の平均を2.1%上回っている。話の中心の聞き取り・発表者の話し方の工夫の聞き取りなどの選択問題は良好である。また、自分が意見を述べるとしたらどちらの立場でどのような理由を挙げて記述するかという問題においては概ねできていた。	○普段の生活から、話を聞く際には相手の話の意図を考えながら聞くことや自分の意見と比べながら聞くことを意識させていく。また、メモの大切さを実感させ、「5W1H」に注意して中心となる事柄を落とさずメモを取ることを指導し、さらに進めて単語でメモを取ったり、言葉を短縮した形で書いたり、表や記号を活用したりすることを指導し、話の要点や中心点を正確に聞き取る力を高めていく。
漢字	○漢字を読むことにおいては、正答率89.9%で市の平均を0.5%下まわり、漢字を書くことにおいては69.3%と市を0.8%下回った。平均正答率は市の平均を3.2%下回っている。	○漢字については、前年度のものを含め、定期的に復習をする時間を設け、繰り返し練習することにより、習熟を図っていく。辞典を活用したり、視写学習を充実させたり、意欲的に漢字を学べるプリントを用意したりするなど、工夫して指導する。また、手元に辞書を置き、文章を記述する際に、努めて漢字を使わせるよう、日常的な漢字の読み書きに生かせるようにする。
言葉の学習	○平均正答率は62.4%で市の平均を3.5%下回った。三字熟語の成り立ちは市平均を5.9%下回り、敬語についての問題の正答率は尊敬語51.0%、謙譲語48.3%と市の平均正答率を大きく下回った。	○言語の学習は、国語科以外の教科・領域を含め、学校教育全体の中で求められている。特に敬語については、日常生活の中で継続して指導し、正しく使えるようにしていく。また、漢字辞典を使う便利さに気づくことを通して、熟語の意味や成り立ちに興味関心を持ち、進んで調べたり日常的に使ったりできるようにする。
物語の内容を読み取る	○平均正答率は市の平均を1.4%上回っている。登場人物の様子を読み取ることにおいては市平均を2%下回ったが、登場人物の心情を読み取る問題においては市の平均を4%上回り良好である。	○読書や読み聞かせの場を通して、様々な物語文に触れる機会を増やしていく。授業では、「中心人物はだれか」「その心情が大きく変わったところはどこか」「主題は何か」という発問を通して、作品の設定や表現技法や中心人物の変化や主題ということを身に付けさせる。
説明文の内容を読み取る	○平均正答率は正答率82.2%で市の平均を3.8%上回った。文章の内容を的確に押さえながら読み取ることにおいては、市の平均を5%上回り、良好であったが、文章の内容を読み取り、他の例に当てはめて考える問題においては、正答率が65%で市の平均を上回ったものの課題がある。	○説明文は、筆者が何か伝えたいことがあって書いている文章である。文と文のつながりを考えながら読み取らせたり、段落のまとまりを考えながら正確に読み取らせていくようにする。また、筆者の伝えたいことについて、自分の意見・感想をもったり他の例に当てはめて考えたりする活用力を身に付けさせたりするために、自分はどう思うという意見や、感想をもつ力を重点化する。
図書館便りと話し合いを読み取る	○図書館だよりなどの、資料を正しく読み取り、適切にまとめることにおいて、正答率は、市の平均を15.3%上回ったものの、56.3%と低かった。話し合いで出された意見を生かして読み取る3択の問題では、やや市の平均を上回った。	○資料を正しく読み取りまとめる力は、社会や総合などの調べ学習の際にも必要とされる活用力である。たくさんの資料の中から、必要な情報を取捨選択し、適切にまとめるようになるためには、大切なキーワードを拾わせ簡潔にまとめる経験を多く積む必要がある。また、読書を通して語彙力をつけ、要約してまとめる機会を設けて慣れさせたい。
作文	○平均正答率は市の平均を2.4%上回り良好である。指定された長さの文章を課題に沿って書く問題は、ほとんどの児童が自分の意見とその理由を区別して書くことができた。しかし、2段落構成で書くことについては、市の平均を上回ったものの正答率は83.9%でやや課題がある。	○文章を書くことへの抵抗を減らし、短時間で適切な文章が書けるように指導を継続していく。また、国語だけでなく、他教科や学活・総合的な学習の時間で、案内状・礼状・手紙文を書く機会を設け、相手意識や目的意識を持った文章に書き慣れさせていく。その際に、内容や構成において、段落を意識して書くようにさせたい。